

普及指導員調査研究報告書

課題名：飼料として使用する粳米への使用可能農薬について

農林総合技術センター技術指導室 担当者氏名：畑中 猛

＜活動事例の要旨＞

飼料用米について、粳米のまま、もしくは粳殻を含めて家畜に給餌する場合、出穂以降使用可能な農薬について、国から指導文書が出されているが、内容を検討したところ、使用できないものが多いことがわかった。

1 普及活動の課題・目標

飼料として使用する粳米への使用可能農薬について、平成25年10月30日付け25消安第3576号・25生産第2254号・25生畜第1320号「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」（農林水産省）において、農薬使用は次のとおりとなっている。（1）飼料用米について、出穂以降（ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降をいう。以下同じ。）に農薬の散布を行う場合には、家畜へは粳摺りをして玄米で給餌すること。（2）粳米のまま、もしくは粳殻を含めて家畜に給餌する場合は、出穂以降の農薬の散布は控えること。（3）但し、以下の農薬成分については、上記（1）及び（2）の措置を要しない。（以下の農薬成分は次ページ参照）。

しかし、以下の農薬成分について、使用基準を確認したところ、使用できないものがあることがわかった。については、登録のある農薬を調査し、使用の可否を明らかにする。

2 普及活動の内容

「飼料として使用する粳米への農薬の使用について」の指導文書において、粳米のまま、もしくは粳殻を含めて家畜に給餌する場合、出穂以降の農薬が示されている。そこで、登録のある農薬を調査し、使用の合理性を検討した。

3 普及活動の成果

粳米のまま、もしくは粳殻を含めて家畜に給餌する場合、出穂以降使用可能な農薬は、殺虫剤（混合剤含む）では成分で30種類、商品で41種類、殺菌剤（混合剤含む）では成分で35種類、商品で54種類、殺虫殺菌剤（混合剤含む）では成分で10種類、商品で10種類、除草剤（混合剤含む）では成分で20種類、商品で20種類であった。

これらの農薬商品のうち、使用基準から出穂以降散布可能のものを○、散布が難しいものを×、使用の判断が難しいものを△とした（表1-1～4）。

使用について、×と△の理由は、登録の失効、使用時期、効果不十分である。

殺虫剤は41商品中41商品で使用可能、殺菌剤は54商品中15商品が使用可能、殺虫殺菌剤は10商品中10商品が使用可能、除草剤は20商品中利用できるものはなかった。

病害虫専門技術会議において、農林事務所へ情報提供した。

飼料用米推進大会において、参加者へ情報提供した。

4 今後の普及活動に向けて

- （1）農林水産省へ合理的な農薬を選択するよう要請する。
- （2）研修会等について、指導文書の内容を正確に生産者に説明する。

5 その他

飼料用米に係る農薬情報（農林水産省の資料を含む）について、誤ったものが多いので注意が必要である。

平成21年 4月20日 21消安第 658号・21生畜第 223号
消費・安全局 農産安全管理課長
畜水産安全管理課長
生産局 農業生産支援課長
畜産部畜産振興課長

改正 平成22年 9月 7日 22消安第5109号・22生畜第1165号
平成23年11月17日 23消安第4124号・23生畜第1825号
平成24年12月17日 24消安第4222号・24生畜第1700号
平成25年 7月 1日 25消安第1579号・25生畜第 490号
平成25年10月30日 25消安第3576号・25生産第2254号・25生畜第1320号

飼料として使用する粳米への農薬の使用について

飼料用米については、食料自給力・自給率向上に向け、その生産及び利用の拡大に向けた取組を推進していくこととしているが、その推進に当たっては、飼料用米を給与した家畜由来の畜産物の安全確保が図られるよう飼料用米の栽培及び家畜の飼養管理を進める必要がある。

稲に適用がある農薬については、飼料用米として利用される稲に対しても使用できるが、粳は散布された農薬が直接付着する部位であることから、一般的には、玄米と比較すると農薬の残留濃度が高いことが知られている。

現場段階では、鶏を中心として粳米のまま、もしくは粳殻を含めて飼料利用する取組が始まっているものの、粳米を飼料として利用することについては、これまでの取組事例が少なく、農薬の残留濃度等についての知見が十分得られていない。このため、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律においても、粳米の農薬残留基準を設定することができない状況にある。

このような状況下において、今般、飼料用米の安全の確保に万全を期すとの観点から、下記の対策により農薬残留の低減を図ることとしたので、貴局管内の各県及び関係機関に貴職から通知願うとともに、農家等関係者に対し周知、指導の徹底をお願いする。

また、この度農林水産省において作成した「[多収米栽培マニュアル](#)」においても当該対策について記載しているので、御了知の上、指導等に活用されたい。

なお、当該対策については、今後農林水産省において、関係者と連携し粳米の農薬残留に係る知見を収集し、必要なデータが得られれば、基準の設定等を行うことにより、適宜、見直すこととしているので申し添える。

記

1. 飼料用米について、出穂以降（ほ場において出穂した個体が初めて確認される時点以降をいう。以下同じ。）に農薬の散布を行う場合には、家畜へは粳摺りをして玄米で給餌すること。
2. 粳米のまま、もしくは粳殻を含めて家畜に給餌する場合は、出穂以降の農薬の散布は控えること。
3. 但し、以下の農薬成分については、上記1及び2の措置を要しない。

ACN（キノクラミン）、BPMC（フェノブカルブ）、PAP（フェントエート）、アジムスルフロン、アズキシストロビン、イソチアニル、イソプロチオラン、エチプロール、オキシリニック酸、オリサストロビン、カルフェントラゾンエチル、クロチアニジン、クロマフェノジド、シハロホップブチル、シメコナゾール、シラフルオフェン、チアメトキサム、チオファネートメチル、ヒドロキシイソキサゾール、フェリムゾン、ブプロフェジン、フラメトピル、フルセトスルフロン、フルトラニル、プロベナゾール、ペノキスラム、マラソン（マラチオン）、メトキシフェノジド、メトミノストロビン及びメプロニル

なお、これらの農薬を含む剤は別紙のとおりであるので参照されたい。

表1-1 飼料用米における粃米利用で出穂後に散布できる農薬

一般名	商品名	合理性	適用病害虫	使用方法	使用時期1	使用時期2	使用時期3	使用時期4
殺虫剤	BPMC乳剤	バッサ乳剤	○	ウカ類、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで		
	BPMC粉剤	バッサ粉剤	○	ウカ類、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで		
		バッサ粉剤3ODL	○	ウカ類	散布	収穫7日前まで		
BPMC・PAP粉剤	エルサンバッサ粉剤2ODL	○	イナゴ、ウカ類、カメムシ類、イネミズゾウムシ成虫、イネトヨイムシ、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ	散布	収穫7日前まで			
PAP乳剤	エルサン乳剤	○	ヒメヒツツカ、カメムシ類、イネトヨイムシ、イネハモグリハエ、イネヒメハモグリハエ、サカメイチュウ第3世代、ニカメイチュウ第1世代、ニカメイチュウ第2世代、フタヒコバガ、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
PAP粉剤	エルサン粉剤2	○	アブラムシ類、セシロウカ、ヒメヒツツカ、カメムシ類、イネゾウムシ成虫、イネトヨイムシ、イネハモグリハエ、イネヒメハモグリハエ、サカメイチュウ第3世代、ニカメイチュウ第1世代、ニカメイチュウ第2世代、フタヒコバガ、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
		○	カメムシ類、イネトヨイムシ、ニカメイチュウ	散布	収穫7日前まで			
	エルサン粉剤3DL	○	ウカ類、カメムシ類、イネトヨイムシ、ニカメイチュウ、フタヒコバガ、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
エチプロール水和剤	キラップフロアブル	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、イネトヨイムシ	散布、散布【アームスプレイヤー】、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
エチプロール粉剤	キラップ粉剤DL	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、イネトヨイムシ	散布	収穫14日前まで			
エチプロール粉粒剤	キラップ微粒剤F	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、イネトヨイムシ	散布	収穫14日前まで			
エチプロール粒剤	キラップ粒剤	○	ウカ類、カメムシ類	温水散布	収穫14日前まで			
	キラップ粒剤	○	ウカ類、カメムシ類	温水散布	収穫14日前まで			
エチプロール・シラフルオフェン水和剤	キラップジョーカーフロアブル	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、コナメイト、フタヒコバガ、ツマグロヨコバイ	散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
エチプロール・シラフルオフェン粉剤	キラップジョーカー粉剤DL	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、コナメイト、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ	散布	収穫14日前まで			
クロチアニジン水溶剤	ダントツ水溶剤	○	ウカ類、カメムシ類、イネトヨイムシ、ツマグロヨコバイ	散布、散布【アームスプレイヤー】	収穫7日前まで			
クロチアニジン水和剤	ダントツフロアブル	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、イネトヨイムシ、ツマグロヨコバイ	散布、散布【アームスプレイヤー】、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫7日前まで			
	ダントツEXフロアブル	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、カメムシ類(アタケホトリカスミカを除く)、イネトヨイムシ、ツマグロヨコバイ、アタケホトリカスミカ	散布、散布【アームスプレイヤー】、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫7日前まで			
クロチアニジン粉剤	ダントツ粉剤DL	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、イネトヨイムシ、フタヒコバガ、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
	ダントツH粉剤DL	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、イネトヨイムシ、ニカメイチュウ、フタヒコバガ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ	散布	収穫7日前まで			
クロチアニジン粒剤	ダントツ粒剤	○	ウカ類、カメムシ類、ニカメイチュウ、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
	ダントツ1キロ粒剤	○	ウカ類、ツマグロヨコバイ	散布	収穫14日前まで			
クロマフェンジド水和剤	マトリックフロアブル	○	コナメイト	散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫7日前まで			
クロマフェンジド・シラフルオフェン粉剤	マトリックジョーカー粉剤DL	○	ウカ類、カメムシ類、コナメイト、フタヒコバガ、ツマグロヨコバイ	散布	収穫14日前まで			
シラフルオフェン乳剤	MR、ジョーカーEW	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、コナメイト、フタヒコバガ、ツマグロヨコバイ	散布、散布【アームスプレイヤー】、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
シラフルオフェン粉剤	MR、ジョーカー粉剤DL	○	イナゴ類、ウカ類、カメムシ類、イネアザミウマ、イネミズゾウムシ成虫、イネトヨイムシ、コナメイト、フタヒコバガ、ツマグロヨコバイ、イネツトムシ	散布	収穫7日前まで			
チアマトキサム水和剤	アクタラフロアブル	○	カメムシ類	散布	収穫21日前まで			
ブプロフェジン水和剤	アブロード水和剤	○	ウカ類幼虫、ツマグロヨコバイ幼虫	散布、散布【アームスプレイヤー】	収穫7日前まで			
	アブロードフロアブル	○	ウカ類幼虫、ツマグロヨコバイ幼虫	散布、散布【アームスプレイヤー】	収穫7日前まで			
	アブロードゾル	○	ウカ類幼虫、ツマグロヨコバイ幼虫	空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫7日前まで			
ブプロフェジン粉剤	アブロード粉剤DL	○	ウカ類幼虫、ツマグロヨコバイ幼虫	散布	収穫7日前まで			
	アブロード粒剤	○	ウカ類幼虫	温水散布	収穫7日前まで			
ブプロフェジン粒剤	ラクオーアブロード	○	ウカ類幼虫	水田に小包装(ハック)のまま投げ入れる。	収穫7日前まで			
ブプロフェジン・BPMC粉剤	アブロードバッサ粉剤DL	○	ウカ類、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
マラソン乳剤	マラソン乳剤	○	ウカ類、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
	マラソン乳剤50	○	ウカ類、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
マラソン粉剤	マラソン粉剤1.5	○	ウカ類、イネクハムシ、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
マラソン・BPMC乳剤	マラバッサ乳剤	○	ウカ類、アザミウマ類、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
マラソン・BPMC粉剤	マラバッサ粉剤DL	○	ウカ類、カメムシ類、アザミウマ類、イネトヨイムシ、ツマグロヨコバイ	散布	収穫7日前まで			
メトキシフェンジド水和剤	ランナーフロアブル	○	コナメイト、ニカメイチュウ、イネツトムシ	散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
メトキシフェンジド粉剤	ランナー粉剤DL	○	コナメイト、ニカメイチュウ、フタヒコバガ、イネツトムシ	散布	収穫14日前まで			
殺菌剤	アズキシストロピン水和剤	アミスターエイト	○	稲こらじ病、いもち病、変色米(カーブリア菌)、変色米(アルカリ菌)、変色米(北コウカ菌)、穂枯れ(こま葉枯病菌)、穂枯れ(すじ葉枯病菌)、紋枯病	散布、散布【アームスプレイヤー】、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで		
	アズキシストロピン粉剤	アミスター粉剤DL	○	穂枯れ(こま葉枯病菌)、紋枯病	散布	収穫14日前まで		
	アズキシストロピン粉粒剤	アミスター微粒剤F	○	紋枯病	散布	収穫14日前まで		
	インチアニル粒剤	ルーチン粒剤	○	いもち病、白葉枯病、穂枯れ(こま葉枯病菌)	温水散布	収穫30日前まで		
	インプロチオラン水和剤	フジワン水和剤	○	いもち病	散布、空中散布	収穫14日前まで		
	インプロチオラン乳剤	フジワン乳剤	○	いもち病	散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで		
	インプロチオラン粉剤	フジワン粉剤DL	○	いもち病	散布	収穫14日前まで		
インプロチオラン粉粒剤	フジワンバック	× (使用時期)	いもち病	水田に小包装(ハック)のまま投げ入れる。	薬いもちに対しては初発7~10日前、穂いもちに対しては出穂10~30日前(但し、収穫14日前まで)			

注 ○は使用可能、△は使用の判断が難しいもの、×は使用が難しいもの。

表1-2 飼料用米における粃米利用で出穂後に散布できる農薬

一般名	商品名	合理性	適用病害虫	使用方法	使用時期1	使用時期2	使用時期3	使用時期4
殺菌剤	イソプロチオラン粒剤	× (使用時期)	いもち病、小粒菌核病、ヒヨロウカ、高温登熟下における白未熟粒の発生軽減、登熟歩合向上	湛水散布	稈いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	1回目：第2回成虫飛来期2回目：第2世代老幼幼虫～第3世代若幼虫期(但し、収穫30日前まで)	
	イソプロチオラン1キロ粒剤	× (使用時期)	いもち病、登熟歩合向上	湛水散布、無人ヘリコプターによる散布	稈いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	出穂10～20日前(但し、収穫30日前まで)		
	イソプロチオラン・フルトラニル粒剤	× (使用時期)	いもち病、紋枯病	湛水散布	出穂30～10日前(但し、収穫30日前まで)			
	オキシロニック酸水和剤	△ (使用時期)	内穎褐変病、もみ枯細菌病、葉鞘褐変病	散布	穂ぼらみ初期～乳熟期(但し、収穫21日前まで)			
	オキシロニック酸粉剤	△ (使用時期)	内穎褐変病、もみ枯細菌病	散布	穂ぼらみ初期～乳熟期(但し、収穫21日前まで)			
	オリサストロビン粒剤	× (使用時期)	いもち病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病	湛水散布	出穂前日まで(但し、収穫21日前まで)	出穂25～5日前まで(但し、収穫21日前まで)	稈いもち初発10日前～初発時	穂いもちに対して出穂25～5日前まで(但し、収穫21日前まで)
シメコナゾール粒剤	モンガリット粒剤	× (使用時期)	稲こじ病、疑似紋枯症(赤色菌核病)、疑似紋枯症(褐色菌核病)、疑似紋枯症(褐色紋枯病)、疑似紋枯症(灰色菌核病)、黒黒穂病穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病	湛水散布	収穫45日前まで			
	モンガリット1キロ粒剤	× (使用時期)	稲こじ病、黒黒穂病、紋枯病	湛水散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫45日前まで			
	シメコナゾール・メトキシロビン粒剤	× (使用時期)	稲こじ病、いもち病、疑似紋枯症(赤色菌核病)、疑似紋枯症(褐色菌核病)、疑似紋枯症(褐色紋枯病)、疑似紋枯症(灰色菌核病)、黒黒穂病穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病	散布	収穫45日前まで			
	チオファネートメチル水和剤	○	稲こじ病、いもち病、黒黒穂病、変色米(ヒコカマ菌)、紋枯病	散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
	チオファネートメチル粉剤	○	いもち病	散布	収穫14日前まで			
	ヒドロキシシノキサゾール液剤	△ (使用時期)	登熟歩合向上	散布、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	出穂直前～出穂期			
	ピロキロン・フラメビル粒剤	× (使用時期)	いもち病、紋枯病	散布	出穂30～5日前まで			
	フェリムゾン水和剤	○	いもち病、ごま葉枯病	散布	収穫7日前まで			
	フラメビル粉剤	×	(登録失効)					
フラメビル粒剤	リンバー粒剤	△ (効果)	疑似紋枯症(赤色菌核病)、疑似紋枯症(褐色菌核病)、紋枯病	散布	収穫30日前まで			
	リンバー1キロ粒剤	△ (効果)	紋枯病	散布	収穫30日前まで			
	フラメビル・プロベナゾール粒剤	○	いもち病、疑似紋枯症(赤色菌核病)、疑似紋枯症(褐色菌核病)、紋枯病	散布	収穫30日前まで			
フラメビル・メトキシロビン粒剤	イモチエースリンバー1キロ粒剤	× (使用時期)	いもち病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病	散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫35日前まで			
	イモチエースリンバー粒剤55	× (使用時期)	いもち病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病	散布	収穫35日前まで			
フルトラニル水和剤	モンカット水和剤	△ (効果)	疑似紋枯症(赤色菌核病)、疑似紋枯症(褐色菌核病)、紋枯病	散布	収穫14日前まで			
	モンカット水和剤50	△ (効果)	紋枯病	散布	収穫14日前まで			
	モンカットフロアブル	△ (効果)	疑似紋枯症(赤色菌核病)、疑似紋枯症(褐色菌核病)、疑似紋枯症(褐色紋枯病)、紋枯病	散布、散布【フームスプレー）、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
	モンカットフロアブル40	△ (効果)	紋枯病	散布	収穫14日前まで			
フルトラニル乳剤	モンカット乳剤	△ (効果)	紋枯病	散布	収穫14日前まで			
フルトラニル粉剤	モンカットファイン粉剤20DL	△ (効果)	疑似紋枯症(赤色菌核病)、疑似紋枯症(褐色菌核病)、疑似紋枯症(褐色紋枯病)、紋枯病	散布	収穫14日前まで			
フルトラニル粒剤	モンカット粒剤	× (使用時期)	紋枯病	湛水散布	出穂30～10日前(但し、収穫14日前まで)			
	モンカット1キロ粒剤21	× (使用時期)	紋枯病	湛水散布、無人ヘリコプターによる散布	出穂30～10日前(但し、収穫14日前まで)			
	ラクオー・モンカット	× (使用時期)	紋枯病	水田に小包装(ハック)のまま投げ入れる。	出穂30～10日前(但し、収穫14日前まで)			
フルトラニル油剤	モンカットサーフ	× (使用時期)	紋枯病	原液を田面水に滴下	出穂35～15日前(但し、収穫45日前まで)			
	プロベナゾール粉粒剤	オリゼートバック	○	いもち病、もみ枯細菌病	水田に小包装(ハック)のまま投げ入れる。	収穫14日前まで		
プロベナゾール粒剤	オリゼート粒剤	× (使用時期)	いもち病、白葉枯病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、もみ枯細菌病	散布	稈いもちには初発の10日前～初発時、穂いもちには出穂3～4週間前(但し、収穫14日前まで)	移植活着後及び出穂3～4週間前(但し、収穫14日前まで)	出穂3～4週間前(但し、収穫14日前まで)	
	オリゼート粒剤20	○	いもち病	空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
	オリゼート粒剤40	○	いもち病	無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
	オリゼート1キロ粒剤	○	いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病	散布	収穫14日前まで			

注 ○は使用可能、△は使用の判断が難しいもの、×は使用が難しいもの。

表1-3 飼料用米における籾米利用で出穂後に散布できる農薬

一般名	商品名	合理性	適用病害虫	使用方法	使用時期1	使用時期2	使用時期3	使用時期4
殺菌剤	メトミノストロピン剤	オリブライト 250G	×	いもち病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病	散布、無人ヘリコプターによる散布	出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)		
		オリブライト 粒剤	×	いもち病	散布	葉いもち初発10日前～10日後(但し、収穫60日前まで)		
		オリブライト 1キログラム剤	×	いもち病、黒しゅ病、ごま葉枯病、白葉枯病、黒黒穂病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、穂枯れ(すじ葉枯病菌)、紋枯病、葉輪腐敗病	散布、無人ヘリコプターによる散布	出穂10日前まで(但し、収穫45日前まで)		
	メトミノストロピン粒剤	オリブライト パック	×	いもち病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病	水田に小包装(ハック)のまま投げ入れる。	葉いもち初発10日前～10日後(但し、収穫45日前まで)		
		オリザトップパック	×	いもち病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)	水田に小包装(ハック)のまま投げ入れる。	葉いもち初発10日前～10日後(但し、収穫45日前まで)		
		イモチエース 粒剤	×	稲こらじ病、いもち病、黒黒穂病、変色米(カブツアガ菌)、変色米(アルカリア菌)、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病	散布	収穫35日前まで		
		イモチエース 1キログラム剤10	×	いもち病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)	散布無人ヘリコプターによる散布	収穫35日前まで		
	メプロニル水和剤	バンタック水和剤75	△	疑似紋枯症(赤色菌核病菌)、疑似紋枯症(褐色菌核病菌)、疑似紋枯症(褐色紋枯病菌)、紋枯病	散布	収穫14日前まで		
		バンタックフル	△	紋枯病	散布、散布【アームスプレッシャー】、空中散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで		
		バンタック粉剤	△	紋枯病	散布	収穫14日前まで		
バンタック粉剤DL		△	疑似紋枯症(赤色菌核病菌)、疑似紋枯症(褐色菌核病菌)、疑似紋枯症(褐色紋枯病菌)、紋枯病	散布	収穫14日前まで			
殺虫殺菌剤	エチプロール・インプロチオラン粒剤	×	いもち病、登熟歩合向上、ウカ類、カメシ類、コメメノウ	湛水散布	収穫30日前まで	葉いもちに対しては初発7～10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前(但し、収穫30日前まで)	出穂10～20日前(但し、収穫30日前まで)	
	エチプロール・オリサストロピン水和剤	○	いもち病、黒黒穂病、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病、ウカ類、カメシ類	散布	収穫21日前まで			
	エチプロール・メトミノストロピン水和剤	×	いもち病、黒黒穂病、変色米(カブツアガ菌)、変色米(アルカリア菌)、穂枯れ(ごま葉枯病菌)、紋枯病、ウカ類、カメシ類	湛水散布	収穫35日前まで			
	クロチアジソン・フラメビル粒剤	△	紋枯病、カメシ類	散布	収穫30日前まで			
	チアマトキサム・アゾキシストロピン水和剤	○	いもち病、紋枯病、ウカ類、カメシ類、ツマゴロコバエ	散布、散布【アームスプレッシャー】、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
	プロプロフェン・BPMC・インプロチオラン粉剤	×	(登録失効)					
	プロプロフェン・BPMC・フルトラニル粉剤	○	紋枯病、ウカ類、ツマゴロコバエ	散布	収穫14日前まで			
	プロプロフェン・インプロチオラン・フラメビル粒剤	○	いもち病、紋枯病、ウカ類幼虫	湛水散布	出穂30～10日前(但し、収穫30日前まで)			
	プロプロフェン・フルトラニル水和剤	○	紋枯病、ウカ類幼虫、ツマゴロコバエ幼虫	散布、無人ヘリコプターによる散布	収穫14日前まで			
	プロプロフェン・フルトラニル粒剤	×	紋枯病、ウカ類幼虫	湛水散布	出穂30～10日前(但し、収穫14日前まで)			
除草剤	ACN剤	×	ウキケリ類、アオシロ・藻類による表層はく離	水田に投げ入れる。	ウキケリ類、アオシロ・藻類による表層はく離の発生時(但し、収穫45日前まで)			
	ACN粒剤	×	ヒルムシロ、藻類(アオシロ、アミシロ)、ウキケリ類	湛水散布	ヒルムシロの発生始～増殖始(但し、収穫45日前まで)	藻類・表層はく離の発生時(但し、収穫45日前まで)	ウキケリ類、藻類の発生始～発生盛期(但し、収穫45日前まで)	
	アジメスルフロロン・カルフェントラゾンエチル・フルセトスルフロロン粒剤	フルフォース1キログラム剤	×	水田一年生雑草、ウリカ、オメガカ、クコクワイ、コキヤカラ、セ、ヒルムシロ、ホルイ、マツハイ、ミスガヤツリ	湛水散布	移植後7日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)		
		キレアジ1キログラム剤	×	水田一年生雑草ウリカオメガカクコクワイコキヤカラセヒルムシロホルイマツハイミスガヤツリ	湛水散布	移植後7日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)		移植後5日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)
	アジメスルフロロン・シハロホップチル粒剤	クサファイター1キログラム剤	×	水田一年生雑草、ウリカ、オメガカ、クコクワイ、コキヤカラ、セ、ヒルムシロ、ホルイ、マツハイ、ミスガヤツリ	湛水散布	移植後20日～ヒ135葉期(但し、収穫30日前まで)		
		フルチャージ1キログラム剤	×	水田一年生雑草、ウリカ、オメガカ、クコクワイ、コキヤカラ、セ、ヒルムシロ、ホルイ、マツハイ	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	移植後7日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)		移植後5日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)
	カルフェントラゾンエチル・フルセトスルフロロン粒剤	ベストコンビ1キログラム剤	×	水田一年生雑草、ウリカ、オメガカ、クコクワイ、コキヤカラ、セ、ヒルムシロ、ホルイ、マツハイ	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	移植後7日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)		移植後5日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)
		フルチャージスカイ500グラム剤	×	水田一年生雑草、ウリカ、セ、ヒルムシロ、ホルイ	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	ヒ1葉期～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)		
	シハロホップチル乳剤	フルチャージジャンボ	×	水田一年生雑草、ウリカ、オメガカ、クコクワイ、セ、ヒルムシロ、ホルイ、マツハイ	水田に小包装(ハック)のまま投げ入れる。	移植後7日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)		移植後5日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)
		ベストコンビジャンボ	×	水田一年生雑草、ウリカ、オメガカ、クコクワイ、コキヤカラ、セ、ホルイ、マツハイ	水田に小包装(ハック)のまま投げ入れる。	移植後7日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)		移植後5日～ヒ14葉期(但し、収穫45日前まで)
シハロホップチル乳剤	クリンチャーEW	×	ヒ1エ、キョウスス/メ1エ、アゼガヤ	湛水散布又は落水散布	移植後20日～ヒ16葉期(但し、収穫30日前まで)			

注 ○は使用可能、△は使用の判断が難しいもの、×は使用が難しいもの。

表1-4 飼料用米における粳米利用で出穂後に散布できる農薬

一般名	商品名	合理性	適用病害虫	使用方法	使用時期1	使用時期2	使用時期3	使用時期4
除草剤	クリンチャー粒剤	× (使用時期)	ヒエ	湛水散布	移植後7～25日(ノヒエ3葉期まで)(但し、収穫40日前まで)			
	シハロホップチル粒剤	× (使用時期)	ヒエ、キョウスズメヒエ、アヒカヤ	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	移植後25日～ヒエ5葉期(但し、収穫30日前まで)			
	クリンチャージャンボ	× (使用時期)	ヒエ	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	移植後25日～ヒエ4葉期(但し、収穫40日前まで)	移植後15日～ヒエ3葉期(但し、収穫40日前まで)		
フルセットスルフロン水和剤	バックアタックDF	× (使用時期)	ヒエ、ウリカ、クワワイ、ヒルムシロ、ホタルイ	落水散布又はごく浅く湛水して散布	移植後14日～ヒエ5葉期(イ4葉期～幼穂形成期前)(但し、収穫60日前まで)			
	ステダチ1キロ粒剤	× (使用時期)	ヒエ、ウリカ、クワワイ、コキヤガラ、ヒルムシロ、ホタルイ、コナキ	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	移植後7日～ヒエ4葉期(但し、収穫45日前まで)	移植後14日～ヒエ5葉期(但し、収穫45日前まで)		
	フルセットスルフロン粒剤	× (使用時期)	ヒエ、ウリカ、クワワイ、コキヤガラ、ヒルムシロ、ホタルイ、コナキ	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布	移植後7日～ヒエ4葉期(但し、収穫45日前まで)	移植後14日～ヒエ5葉期(但し、収穫45日前まで)		
	ステダチジャンボ	× (使用時期)	ヒエ、ウリカ、クワワイ、ヒルムシロ、ホタルイ	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	移植後14日～ヒエ4葉期(但し、収穫45日前まで)			
	ヒエクッパジャンボ	× (使用時期)	ヒエ、ウリカ、クワワイ、ヒルムシロ、ホタルイ	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	移植後14日～ヒエ4葉期(但し、収穫45日前まで)			
ペノキスラム水和剤	ワイドアタックSC	× (使用時期)	水田一年生雑草、ウリカ、オモガカ、クワワイ、コキヤガラ、セリ、ホタルイ、マツハイ、ミスガヤツリ	落水散布又はごく浅く湛水して散布	移植後20日(イ5葉期以降)～ヒエ5葉期(但し、収穫30日前まで)			

注 ○は使用可能、△は使用の判断が難しいもの、×は使用が難しいもの。